

---

# 経営学部教授 鳥居徳敏先生を送る

経営学部長 後 藤 伸

---

本学部教授鳥居徳敏（とりい とくとし）先生は、2017年3月末日をもって神奈川大学を定年退職されます。経営学部『国際経営論集』の本号を鳥居先生の退職記念号として上梓するとともに、この巻頭言において鳥居先生の研究教育業績等を簡単ながらご紹介することで、学部一同よりの惜別の辞とさせていただきます。

鳥居先生は、1970年3月に名古屋工業大学工学部第一建築学科をご卒業されたあと、マドリード工科大学建築学部建築史専攻に進まれ、先生の生涯の研究テーマであるスペイン建築史の研究を本格的に開始されております。3年にわたる留学後日本に帰国され、建築事務所に勤務される傍ら、跡見学園女子大学、淑徳大学、昭和女子大などで非常勤講師を勤められました。この間、カントリー・クラブを中心に民間の建造物の計画・デザインを担当するとともに、スペインの著名な未完成建造物の完成予想CG図面の作成やスペイン都市史にも研究領域を広げていかれました。そして、1994年には学位論文「ガウディ建築の組成論的研究」によって名古屋工業大学より博士（工学）の学位を取得されております。

神奈川大学経営学部とのかかわりは、2000年4月に平塚キャンパス（現湘南ひらつかキャンパス・SHC）のスペイン語担当教員として赴任されたときに始まります。先に述べましたように、ご専門は建築史・美術史であり、とくにサグラダ・ファミリアなどスペイン建築で高名なアントニ・ガウディに関する第一級の研究者であります。2000年に出版された『建築家ガウディ その歴史的世界と作品』（中央公論美術出版）は、学位論文をベースにその永年の研究をまとめられた記念すべき著作といえましょう。建築史のほか、地中海を中心とした都市文化の紹介と啓蒙にも携わられてこられました。先生の研究熱心は誰しも知るところであり、書かれた著作は単著・共著併せて26冊を数え、論文は35編に達しています。また、啓蒙的な文書を含めての業績には枚挙にいとまがないほどであります。さらに学会活動では、日本建築学会、建築史学会、日本インテリア学会、地中海学会、スペイン・ラテンアメリカ美術史学会に所属され、代表あるいは幹事としてご活躍してこられました。

教育面では、スペイン語の主担当として永年、スペイン語教育をSHC学生に教授されるとともに、SA（スタディ・アブロード）に参加した学生を毎夏スペインに引率され、現地での語学研修や異文化体験に尽力されてきました。その功績にわれわれ教員一同は深く感謝するところであります。

研究・教育面のほかにも、大学内の各種役職に就かれ、管理運営面でもご活躍されてきました。すべてを挙げることは控えますが、平塚図書館長、法人評議会評議員、教学評議会委員といった全学の重要な役職を歴任されたほか、就職委員、学修進路支援委員会委員長等を引き受けられ、また教学の改革にもご尽力されてきました。先生の職務に当たっての誠実さはよく知られているところであり、難しい局面に際しての時に軽妙洒落な寸鉄と具体的な納得のいく解決策の提言は、私自身なんども救われた経験をもっております。感謝を申し上げるしだいです。

まことに残念ではありますが、先生は定年という年齢制限のために大学の運営からは手を引かれ

ます。しかし、鳥居先生には研究・教育をふくめいろいろな場面において引きつづきご指導とご鞭撻をいただけものと期待しております。最後になりましたが、お身体を大切になされつつ、先生の一層のご活躍をこころから祈念して擱筆するしだいです。